



平成12年7月20日
木 武 一
鈴 木 武 一
行 任 者
50 頁 冊
発行 所
第 1 号

上野賀祭のスタート

親子の絆を深めよう
青少年委員 江藤真理子
体育指導員 奥島盛里子

これは今年の四月から、毎月第二土曜日の午前10時から12時まで用賀小学校で行われています。気軽にできるスポーツや遊びを通して、地域の方々の健康作りと交流の場になることを目的として、自分の責任で自由に遊ぶことをモットーに、幼児から高齢者の方々まで、誰でもが自由に気軽に参加できる楽しい地域の広場です。

ギョウキボール、テニス、バスケットボール、卓球等の他、いろいろのニュースポーツを、皆さんが楽しく遊びたい汗を流しています。

町会や地域関係委員、学校関係者の方々の協力で立ち上げられましたが、今後は地域の皆さんで少しずつ力を出し合って作っていく交流の場にするために、世話人とプレイングパートナーを大募集中です。皆さん一緒に遊びましょう。

今子育てをしていて思う事



三子市小中少年団

石井八重子

最近、テレビや新聞などで、高校生がひきおこす信じられないような事件が報じられています。同じ世代の子を持つ親としてとても不安な気持ちになります。

何が良くて何が悪いのか何でも許されるような時代、一歩外へ出れば沢山の誘惑が待っています。

自分の意志をハッキリ持ち、他の人に思いやりを持ち、誰からも好かれるような子供になって欲しいと願っています。せめて我が子にはまわがった道に行かないよう、子供と会話をもち、時には妥協しながら、毎日を送りて行きたいと思っています。

夏休み親子の絆

親子の絆を感じるひととき

児童委員 小林徳子

私の背丈を越える息子の釣りに付き合う。屋下がり、ビニールと飛んだ竿の糸。その糸の先の海面はキラキラと光っている。私も息子も同じ方向を見ているそんな時「あ、さ、うーん」なかに？の会話はとてもゆったりとしていて、心臓の音と呼吸が同じリズムの様に感じます。まるで陽だまりみたいな時間が流れる。

連日報道される事件で、家族、親子の関わり方が色々と書かれ、思わず肩に力が入りそう。でも子育ては毎日の何気ない一緒の時間を大切に、気負わず、もうちょっとノんびり行こうよ。

真夏の夜の夢

瀬田小中少年団
会長 吉岡光章

「おじさん、来年も絶対やってね……あれから一年が経とうとしている。

瀬田小中少年団の会では、去年夏休みに「学校でサマーカーニバル」という、親子で参加できる一泊体験イベントを企画しました。

子供達190名、おやじ、保護者、教職員60名の合わせて250名の大世帯。7学校という器を使っている。未体験・真夏の夜の夢。運動会、ダンボール寝床の製作、夕食作り、夜の学校探検。内容は盛り沢山であった。

さて、この夏はどうしようか？。実は、おやじ達が楽しみにしています。

子育ての楽しみ

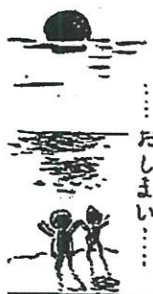
児童委員 小林徳子

よく、「何人もいて大変だね」と言われます。たしかに最初はわけもわからず子供を育てていくのですから大変です。思い通りにいかず、毎日、同じ事を注意しても直らず、イライラして激怒する事もあります。そして、いつも疲弊を見ては反省の日々を送っています。前は、何か壁に当たるとマイナス方向に考えがちでしたが、今は、子供と同じように学校の手、習い事に参加できて、張り合いがあり、これから、もっと子育てを楽しみたいと思っています。(前京小中少年団会長夫人)



浜降祭の頃
鈴木武一

「今日は海の日 記念の日
来たよ来たよ夏本番
海はひろいナ大きいナ
此処は茅が崎いそづたい
相模地方の一の宮
寒川神社と申します
年に一度の夏まつり
歴史は古く鎌倉の
源平の世に創めた
鳥居の神鹿に教わった
近郷みこし集まって
大漁祈願と 海、安全
肌出し踊出し 海入りだ
ワッショワッショの掛け声に
セイマ セイマが競いてく
何にのろうが構わぬが
新聞記事に載っちゃん駄目
うちじや両親もってろヨ
流れる渚は風をつけて
サンマ鰯は近海魚
さがみ灘から房総沖
地曳網なら九十九里
マグロ鰹の太ものは
一本釣りだよ太平洋
遠洋漁業の花形は
印度洋から始まって
赤道はるか彼方まで
サカナ日本のかせぎ場だ
捕れた獲ものは先ず三崎
焼津 小名浜 気仙沼
四大漁港へソレ大漁
冷凍すがたで上陸だ
浜は大漁の旗のぼり
お目出度うだい日本漁業
夜明けの魚河岸セリの声
売った買ったの仕切場所
舟司やの小父さん喜んで
締めたハチ巻めしぱり
大トロ握って毎度ありッ
手拍子一本 またどうぞ
遠くで夕陽が笑ってた
……おしまい……



ひろば ご希望の方は出張所においてありますのでどうぞ。

回覧

郷土紹介

三本杉陸橋



今、環状八号線を通行する車は、三本杉陸橋で世田谷通り新道を渡って行きますが、昔、この近くに三本の杉の大木が生えていたと云う謂れから、その地名が陸橋の名前に付けられたものです。

此処は、もとく地形上も高台で、江戸時代、この附近で交差していた登戸道や府中道(鎌倉道)を通る人々にとって、その三本の杉の木は遠くから目印になったものと思われれます。

当時、この場所は大蔵、横根、瀬田、用賀、世田谷と五ヶ村の村境が集まっていた所、三本杉は横根村の

中にあった様です。

古い資料によると、横根村は二十ヶ村の小村でしたが、明治八年、大蔵村に合併され、横根と云う村は歴史から消えてしまい、いつの日か、三本の杉の木も姿を消しました。そして、今その村の名は、近くの横根稲荷神社に、地名は三本杉陸橋に残っています。

時は流れ、平成の世、三本杉に代って、この辺りの目印は世田谷清掃工場の大煙突、近くには高層マンションが林立しています。

三本杉の地名の所に、奇しくも世田谷区、世田谷、玉川と三総合支所の行政区画、村境が集まっていたのは歴史の悪戯でしょうか。



(飯田)

横根と世田谷の学校

校長 小松邦江

本年は、創立二年目の府立第十一高等女学校(横根高校の前身)が用賀に移転して六十年となります。横根高校の生徒の六十%以上は世田谷区に居住しており、祖母・母・娘と三代にわたって通われた方も多くいます。正面にそびえる樹齢九四年の榊は、移転の記念にご近所の飯田様からいただいた三本のうちの一本です。横根高校はこの榊のように「地域に根差した学校」として発展していきたいと思いをもちます。



榊様について

本校がこれからも「地域の皆様に愛される学校」であるために、様々な取り組みを行ってまいります。今後とも皆様のご支援をよろしくお願い致します。

昨年、町会長さん、青少年委員、小中学校の校長先生方との懇談会を行っています。その他、様々な行事、公開講座、体育施設開



名輝と瀬田の讃岐

瀬田ミツエ

「見れども儼かめ玉藻の浦千尋の底に」しずくなら

故郷の学舎の校歌の一節です。「故郷は遠きにありて想うもの」と、私が故郷を思う時はこの一言につきるのです。小び一年の夏休み祖父に連れられ、玉藻城内の林間学校に通った事、高学年になっては反と瀬田内の砂浜の海水浴にと。美しい東林公園内赤橋の裡に棲を、瀬田山(琴平さん)詣。秋には小豆島の寒霞溪に、源平古戦場緑りの屋島に。思い出は尽きません。

元々、故郷の四国地方は周辺全部海で囲まれている

わが故郷

どこに行くにも船を利用しなければなりません。特に夕日輝やく瀬田海の往來船はとても美しく、一幅の絵の様に。でもその故郷を離れ外地の暮しを十年近く、終戦後帰郷してみて、四国の一都市市高松も一部荒土となった事を聞かされました。その数年後、当瀬田に落ち付くことになり早や、数十年。現在私達一家はこの瀬田を「第二の故郷」と思ってお世話になっているのです。

瀬田大橋が開通した折、早速、生地を訪問しました。周辺は「琴平電鉄」の駅になっていくと事でした。又、最近、夢の連絡橋が数々完成、今一度、四国を船で、橋で、一周したいものです。

スポーツ

①金隔り

用賀駅前くすのき公園
7月26日(水)27日(木)
玉川三丁目高架下
7月28日(金)29日(土)
瀬田小学校
7月29日(土)30日(日)

用賀小学校
8月25日(金)26日(土)

②用賀納涼の夕べ
8月21日(月)

③たまがわ花火大会
8月19日(土)

④せたがや区民まつり
8月5日(土)6日(日)

⑤国勢調査
十月一日、全国一斉に

⑥名称が変わります(八月まで)
「新玉川線」が「田園都市線」に、「二子玉川線」が「二子玉川線」に。



〇十七才という言葉が大きな話題となって世の中でさやかれています。戦後の六・三制の教育制度も半世紀、五十才になり一つの大きな節目を迎え、皆さんで考える時ではないでしょうか。

〇少子高齢化の中で「子育て」こそ、親はどう育てて良いか迷い、子供は先が見えず目標を失い壊れそうです。

〇地域の教育力を生かし、この夏は親と子の絆を深めることをテーマに特集しました。

心と心が通い合う親子のスキンシップを願っています。(池田)

